



<< 整備地 >>
 平成26年度まで
 平成27年度以降

荒川太郎右衛門地区自然再生地

実施計画事業範囲

①	上池・中池横堤上
②	(モトD施工状況確認)
③	ホンダエアポート、桶川スポーツランド、中池旧流路
④	樋詰橋
⑤	下池ハンノキ移植地入り口
⑥	下池下流入り口、下池の樹林
⑦	中池河畔林
⑧	上池上流入り口、上池旧流路・湿地整備地

<主なアクセスロ>

- ➡ 自動車可
- ➡ 主に人・農作業車

第 38 回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

●平成 26 年 12 月 16 日(火) 10:00～12:00、桶川市農業センター

【議事結果】

- モニタリング結果の公開方法について了承する。
- 広報活動については、自然再生活動に支障を来すものでなければ、非公式で小さなものを中心とん始めていくことを了承する。

【主な議事内容】

◎協議事項

- 第 37 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録
(質疑応答無し)

●生態系モニタリング専門委員会の活動

- ・ モニタリング結果の公開方法の提案について了承する。
- ・ 専門家からのオプナーがあった場合の情報提供方法は未検討であり、学術論文あるいは詳細な研究の目的のための情報の公開・非公開は今後必要に応じて検討する。
- ・ 情報の公開・非公開を検討する必要があるのは、盗掘や類似の行為があるからである。太郎右衛門においては、環境教育を説明する人を配置することが非常に重要である。保護がきちんとできるのであれば全部公開することが望ましい。
- ・ 重要種に限らず、セリ摘みやソノ取りなどを今まで継続してやっている人たちがかなりいるので、そのような人たちに対する環境教育をどうするのか、そのような行為を許容するのか全てご遠慮いただきたいという方針にするのかも検討する必要がある。
- ・ 両生類が調査未実施となっている理由は何か。
→産卵期の 2 月を予定している。
- 両生類は産卵時期がその年によって随分ずれるので、予定時期の調査で確認されなかった場合は何回か見ていただきたい。
- ・ 下池の『湿地』が乾燥化していると判断した理由は何か。
→植生の状況から判断した。

●維持管理・環境管理専門委員会の活動 (質疑応答無し)

●広報 WG の活動

- ・ イベントに大学の学生さんに参加してもらうには、学長への手紙が有効である。 高校生についても講義の機会をうまく使えば集められる可能性がある。
- ・ 今の協議会メンバーは年齢層が高いため、違った感覚を導入するために若いプロを活用していきたい。

- ・ 活動を円滑・活発にするためには現地に拠点が必要だ。
- ・ 学生さんたちに参加してもらうにあたっては教育的側面の議論がある。指導する側の主義主張に従う展開を統一する必要はないと思うが、現地の保全ということも含めて、どんな教育カリキュラムを展開するかという議論が必要だと思う。
- ・ 大学生、企業、退職した高齢者などに応じてカリキュラムを作って積極的に呼びかけていくと良い、力仕事に働いている企業が協力してくれると助かる。
- ・ 幼稚園や小学校低学年の子どもたちもなかなか自然に触れる機会がないので、機会を作ってあげたい。
- ・ 大学では地域貢献でボランティアに単位を与えているところに参加してもらえると良い。
- ・ 指導者を育成していく必要がある。 外から来た人たちに現地を案内できるような組織ができると良い。一般の人はおもしろく説明してくれるガイドがいると集まる。
- ・ 活動を長続きさせるために、この地形を生かした風景、新しい風景をつくってもらいたい。
- ・ 大がかりなことは半年ごとに何か決めるようになってしまっているので、自然再生活動に支障を来すものでなければ、小さなものからどんどん始めて良いのではないかな。
- 非公式で集まってアイデアを具体化して誰かが手を挙げて動くことと良い。
- 全部公式では事務局の対応が大変なので、非公式で動くことと良い。
- ホームページのアクセスが少ないので、ブログやフェイスブック、ツイッターを非公式で始めても良いのではないかな。
- 非公式の活動をやっていくことを了承する。

●工事の状況と予定について
(質疑応答はなし)

●平成 26 年度のスケジュール
(質疑応答はなし)

第38回協議会の意見に対して活用できる場所と理由

第38回協議会の意見	活用できる場所	理由
大学生のイベント参加		
高校生の参加		
大学生、企業、退職した高齢者などへのカリキュラム		
幼稚園や小学校低学年の子どもたちの自然に触れる機会		
大学との連携 (地域貢献ボランティア)		
指導者の育成		
拠点		
企業CSR、 技術者継続教育(CPD)		

